

研究・調査報告書

報告書番号	担当
230	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Modelling over week patterns of alcohol consumption. 一週間でのアルコール消費パターンのモデリング	
執筆者	
Lopes C, Andreozzi VL, Ramos E, Sa Carvalho M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2008 Mar-Apr;43(2):215-22.	
キーワード	
一週間のアルコール消費、飲酒行動、モデリング	
要 旨	
<p>目的： 一週間を通じたアルコール消費を社会的特性にて調整を行った分析をし、本研究で用いた複合モデルの適切さに関して論議する。</p> <p>方法： 7日間の食事記録を行った40歳以上の男女496人を抽出した。Bayesian additive mixed model (GAMM)を適用し、二つの方法をとった。一つは、アルコール消費を「非飲酒」、「食事中のみ飲酒」、「いつでも飲酒」の3群に分けた多項モデル。もう一つは、一日あたりに消費された全アルコール量を考慮したガンマ・モデル。</p> <p>結果： 多項モデルにて、アルコール消費における二つの異なるパターンが明らかになった。「食事中のみ飲酒」者では週末に著しく飲酒量が増加、「いつでも飲酒」者において有意な飲酒行動は月曜から日曜にかけて直線的な増加が見られた。高学歴であることは「食事中のみ飲酒」者にとってはわずかに予防的に作用したが、「いつでも飲酒」者においてはむしろ危険を増す方向に作用していた。アルコール消費量の示すパターンは「食事中のみ飲酒」者と同様であった。</p> <p>結論： アルコール消費は一週間が進むに連れて増加した。飲酒行動様式によって二つの異なったアルコール消費パターンが見られた。本研究で用いた方法論はこれらのパターンを明らかにするのに必須であった。</p>	